

第1学年道徳科学習指導案

令和2年11月27日（金） 第5校時
四万十市立東中筋中学校 第1学年 6名
授業者 弘田 華愛

1 主題名 よりよく生きる D(22) よりよく生きる喜び

2 ねらい 卓也の素直な心に触れることで心が揺れ始めた主人公の気持ちを考えることを通して、弱さや醜さと向き合い、よりよく生きようとする道徳的心情を育てる。

3 教材名 「銀色のシャープペンシル」(出典：中学生の道徳「自分を見つめる1」廣済堂あかつき)

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方

人間は誰しも完全ではなく、弱さや醜さをもっている。自己を否定されることを恐れるあまり、自分の非を認められずに言い逃れをしたり、自己を正当化したりする言動も見られる。しかし、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。そして、自らの良心に従って弱さや醜さに打ち勝ち、自分に誇りをもてた時、人間として生きる喜びを見出す。本時では、自分の中にある弱さや醜さを克服し、自分を奮い立たせる主人公の生き方に目を向けさせることでねらいに迫りたい。

(2) 生徒の実態と教師の願い

本学級の生徒は、全体的に明るく、自分の考えも素直に表現できる。これまでの道徳科の学習の中で、すべての生徒が今までに「うそをついたりごまかしたりした」経験をしたことがあるということが分かっている。そのとき、ほとんどの生徒が罪悪感を抱いたり、もやもやした気持ちになったり、自分自身の中に後悔や自責の念が生じた経験をしている。これらの実態をふまえ、人は誰でも過ちや失敗をすると、自己保身からうそを言ったりごまかしたりしてしまう弱さがあることに気付かせ、そのうそやごまかしから起こる後悔や良心の呵責、葛藤について深く考えることができるようにしたい。そして自分の弱さ、醜さを克服し、よりよく生きようとする意欲を育てるようにしたい。

(3) 使用する教材の特質及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策

本学級の生徒は、教材の内容理解、把握に時間がかかることが予想されるため、事前に教材を読ませた後、本時の冒頭で登場人物や内容を確認することから始める。主人公「僕」が誠実に自分の非を認める卓也の心に触れ、葛藤しながらも自分を奮い立たせることで、誇りある生き方へと心が変容することに着目し、弱さや醜さを克服し、よりよく生きることの良さについて多角的に考えさせたい。

5 本時で期待する生徒の姿

〔授業前の生徒の考え方〕

- ・自分がよければそれでいい。
- ・みんなもやっているから多少の悪いことはしてもいい。
- ・他の人のせいにしてごまかせばいい。

→ 〔授業を通して高めたい生徒の考え方〕

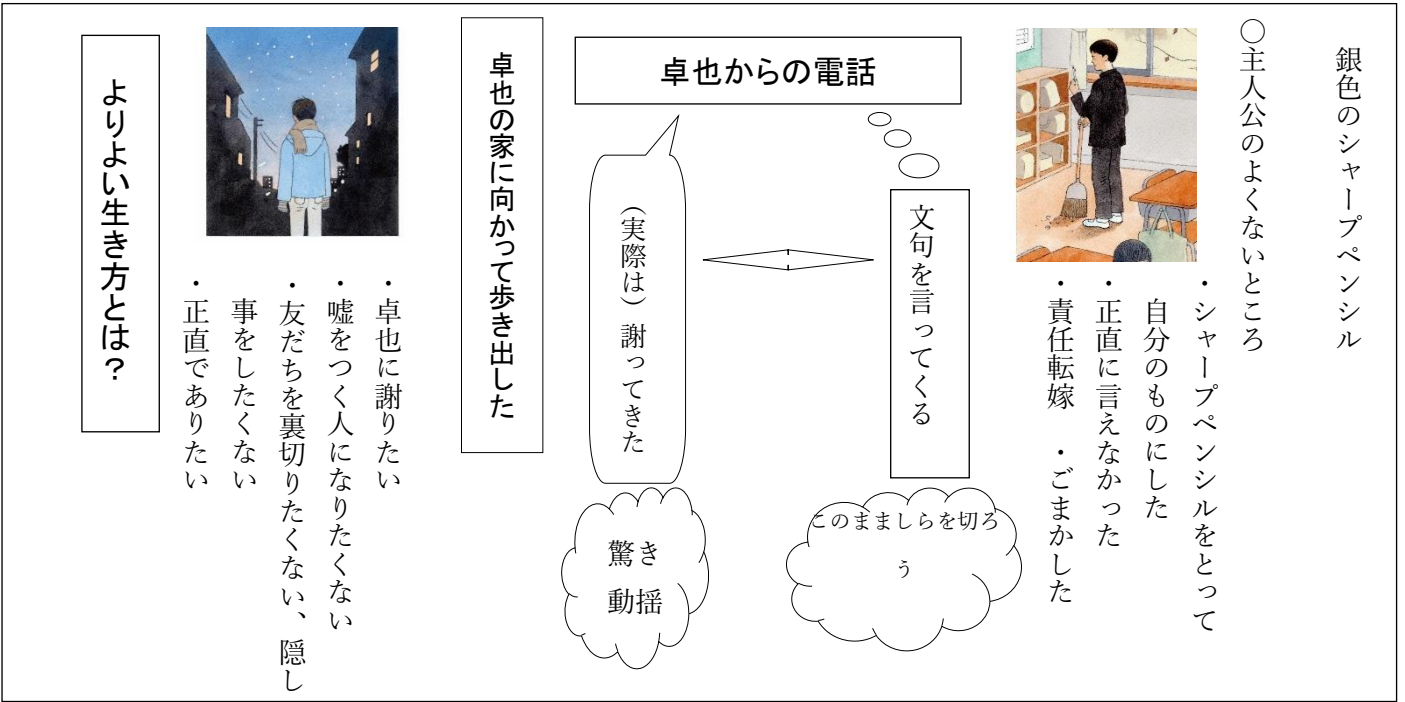
- ・人間には弱さやずるさがあるので、それを乗り越え、よりよく生きたい。
- ・正直な自分になりたい。

7 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◎中心発問	指導上の留意点
導入	1 教材の内容を確認する。	○話に出てきた人物と内容を確認しよう。	・事前に教材を読ませておき、ペアで内容を確認させる。
展開	2 教材を読み、考える。 (1) 主人公の心の弱さを考える。 (2) 主人公の心の変容を理解する。	○「僕」のどんなところがよくないと思いますか。 ・シャープペンシルを自分のものにしてしまったこと ・正直に言えなかったところ ・嘘をついたこと ・みんなもやっていることだと責任転嫁しているところ ・ごまかすところ ○卓也からの電話を受けて、「僕」はどんなことを考えただろう。 ・自分が恥ずかしい。 ・文句を言ってくると思っていたので、謝られたことに驚いた。 ・卓也は正直に言ってくれたのに、自分をごまかしてばかりで情けない。 【補助発問】 ◇卓也はなぜわざわざ謝ってきたのだろう。 ◎卓也の家に向かって歩き出したとき、「僕」は何を考えていただろう。 ・卓也に謝りたい。 ・嘘をつくのは嫌だ。嘘をつく人になりたくない。 ・これ以上友達を裏切りたくない。隠し事はしたくない。 ・友達には正直でありたい。 【補助発問】 ◇卓也から謝ってきたのだから行かなくてもいいのではないか。 ◇卓也のところに行ってしまうと関係が壊れてしまうのではないか。 ◇「僕」が嘘をつき通そうとしなかったのはなぜだろう。	・「僕」の行動でよくないと思ったところに線を引きながら聞かせる。 ・自分への保身の気持ちや自己中心的な考え、他人に責任転嫁しようとする「僕」の弱さをとらえさせる。 ・「僕」の立場に立って考えさせる。 ・卓也の正直な心に触れたことで、「僕」が自分自身を見つめなおすきっかけになったことをおさえる。 ・「僕」の思いを多角的に考えさせる。 ・主人公の変容から、人は自分が「よりよくなりたい」という思いがあることをおさえ、自分自身について考えさせる。
終末	3 まとめ	○自分にも「僕」のように変わりたいと思っていることはあるだろうか。	

【評価の主な視点】「僕」の心情を自分に置き換えて想像し、自己の弱さや醜さと向き合い、それらに打ち勝つことについて自己との関わりで考えを深めている発言や記述がある。

8 板書計画



9 他の教育活動との関連

